２０１６（平成２８）年度　秋桜高等学校　学校評価報告書

１．自己評価の結果の報告

（１）重点的に取り組むことが必要な目標及び評価指標等【Ｐｌａｎ】

「目標」

- 生徒一人ひとりとしっかり話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する。
- 基本的生活習慣の確立を図り、学校生活が心地よく過ごせるよう、全教職員で取り組む。
- 教職員間の情報交換がしっかりできるよう工夫し、生徒一人ひとりを大切にした教育に全教職員で取り組む。

「日程計画」

平成 28 年	4 月	自己評価・学校評価についての基本計画策定 三者懇談 重点目標の修正検討 具体的な目標の設定
	5 月～ 6 月	自己評価・学校評価項目の設定 学校関係者評価委員会の設置 教職員に対する自己評価アンケートの実施 生徒・保護者に対する学校評価アンケートの実施
	7 月	教職員に対する自己評価アンケート結果の整理 生徒・保護者に対する学校評価アンケート結果の整理 学校関係者評価委員会 自己評価委員会
	9 月	平成 27 年度秋桜高等学校評価報告書作成 教職員に対する自己評価アンケートおよび生徒・保護者に対する学校評価アンケートの結果を踏まえた改善方策の見直しとその報告および公開
	10 月	三者懇談にて、教職員に対する自己評価アンケートおよび生徒・保護者に対する学校評価アンケートの結果報告と意見交換
	11 月～12 月	評価結果および三者懇談を踏まえての総括と反省点の整理

平成 29 年	1 月～ 3 月	平成 29 年度の目標設定と具体的取組に反映 教職員による年度末総括
	4 月	自己評価・学校評価についての基本計画策定 重点目標の修正検討 具体的な目標の設定 自己評価・学校評価の項目の設定 学校関係者評価委員会の設置 三者懇談 教職員に対する自己評価アンケートの実施 生徒・保護者に対する学校評価アンケートの実施
	5 月～ 6 月	教職員に対する自己評価アンケート結果の整理 生徒・保護者に対する学校評価アンケート結果の整理 学校関係者評価委員会 自己評価委員会
	7 月～ 9 月	平成 29 年度秋桜高等学校評価報告書作成 教職員に対する自己評価アンケートおよび生徒・保護者に対する学校評価アンケートの結果を踏まえた改善方策の見直しとその報告および公開

「評価指標」

- 評価指標は、日常の生徒との交流および保護者との懇談等をもとにした教職員全員の認識を基本とし､その意見交換により目標の達成状況を評価するものとする。
- 評価に必要な情報交換の場として、定期的および臨時的な会議等の機会を適切かつ柔軟に設けることとする。
- 自己評価の資料としてのアンケート調査を実施する。
- 調査するアンケートについては、評価項目とともに文章表現にも留意する。

「その他」

- 継続課題として前年度に改善傾向が認められる以下については、引き続き取り組む。
  ① 各教職員間の情報伝達
  ② 宿泊研修等の特別活動への有意義な参加についての生徒の認識
  ③ 学校づくり、学習指導・教科指導の充実についての保護者の認識

（２）取組状況等【Ｄｏ】

「目標への取り組み」

- 当年度の重点目標は、前年度のものを踏襲する。
- 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。
- 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。
- 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。
- 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。
- 基本的生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講、および特別活動への参加等についての相談に応じる。
- 特別活動などを通して人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。
- 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。
- 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。
- 教職員間の情報交換がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。
- 職員会議等の機会のみならず、日常においての情報交換を行い、相談できる機会を持つ。
- 生徒一人ひとりを大切にした教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに務める。
- 特別活動への有意義な参加については、生徒の認識を深めるための説明会を充実させる。
- いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。

「日程」

- 教職員に対する自己評価アンケートと、生徒・保護者に対する学校評価アンケートの日程については、前年度よりも早い時期から取り組み、実施する（4 月）。
- 自己評価委員会および学校関係者評価委員会の日程についても、前年度より早い時期に実施する（6 月）。

「評価指標および評価作業」

- 上記取り組みの確認と達成度について検討する場として、教職員は年に 2 度の三者懇談（4 月と 10 月）、授業および各種行事日程の前後において、様々な会議や集まりの機会を持ち、それぞれの視点から積極的に意見を交換する。

「アンケート調査」

- 生徒・保護者に対する学校評価アンケートの評価項目および文章表現について、学校関係者評価委員会からの意見をもとに職員会議で議論し、前年と一部変更して実施する。
- 生徒に対する学校評価アンケートについては、内容が重複する箇所を削除するとともに、より具体的かつわかりやすい表現に一部変更する。
- 保護者に対する学校評価アンケートについては、内容が重複する項目を削除することとする。
- 教職員に対する自己評価アンケートについては、変更なしとする。
- アンケート実施時期について、生徒・保護者に対する学校評価アンケートについては 4 月の三者懇談時に、教職員に対する自己評価アンケートについては 4 月下旬に変更して実施する。

（３）達成状況および評価結果の分析等【Ｃｈｅｋ】

「目標の達成について」

- 授業や各種行事等を含む日常の生徒との交流および保護者との懇談等をもとに、教職員は目標を理解しつつ活動した。
- 定期的、臨時的な会議および日常的な意見交換の場において確認された教職員の認識によれば、重点目標について各教職員の理解と協力が得られたと思われる。
- 前年度に引き続き上記のような取り組みを実行し、その結果は当年度においても全般的に目標に沿った効果を見ることができたと考えられる。
- 前年度の課題となっていた「生徒指導」に関しては、保護者との連絡を取り合いながら職員会議や懇談の機会を重視して、引き続き次年度においても取り組むこととする。

「アンケート調査結果」

- 資料としてのアンケート調査については、必ずしも高い評価結果のみが終着点ではなく、評価結果につながる事象の内容精査により、課題を抽出する必要があると考えられる。
- 一般的に、アンケートには評価対象の実態を客観的・合理的に反映するものが求

められ、発問者が恣意的に回答側からの肯定ないし好意的な回答結果のみを引き出そうとするものであってはならない。

- また、アンケートの文章表現については、一般的・汎用的表現になり過ぎて発問の意図が正確に伝わらなかったり、これとは逆に例示的・具体的表現に拘泥して、回答側の理解やイメージの広がりを許容以上に限定的なものにしたりすることも避けることが必要となる。
- 以上の点は、今年度の教職員に対する自己評価アンケートおよび生徒・保護者に対する学校評価アンケートに反映されていると思われ、評価項目等については、各アンケート結果の通り、おおむね高い評価が得られている。

「その他」

- 教職員に対する自己評価アンケートおよび生徒・保護者に対する学校評価アンケート結果の公表については、従来通りＰＤＣＡサイクルに基づいた内容のものとし、簡潔明瞭であることを旨としてきたが、実態としての評価活動との関連付けをより理解しやすくするための改善の余地がありと思われる。

（４）今後の改善方策等【Ａｃｔｉｏｎ】

「改善方策」

- 上記の評価結果にあるように、重点目標について一定の効果を見ることができたと考えられるが、その結果を踏まえて当面は、いっそうの改善事項として次の内容を含めることとし、よりよい学校運営と学習環境の充実に向け、今後も引き続き努力することを旨とする。
- 各教職員間においては、適切な個人情報の保護に配慮しつつ、できるだけ開放的な情報環境の構築に努め、各種行事の内容・日程および校務運営全般の企画・調整、教育課程検討、生徒指導指針、人権教育をはじめとする各種研修、進路指導、カウンセリング、広報活動等の校務分掌各部の分担業務について、教職員間での連携・協力を奨励する。
- 特別活動については、活動内容の企画・立案や生徒参加の留意点等について、慣例的・固定的なものにこだわることなく、充実したものとなるよう努める。
- 教育方針や生徒指導等に関しては、懇談の機会を重視しながら、教育内容に関する各種通信文書、「いじめ防止基本方針」のＨＰ掲載等を活用しつつ保護者への周知を進める。
- 何よりも「楽しい学校」であるべく工夫し、各生徒が自らも他からも肯定されることから始めることによって、自信と将来への希望を育むことに心がけていきたい。

「その他」

- 自己アンケートについては、評価項目および文章表現上のバランスに配慮して、回答側が発問の趣旨をなるべく容易かつ正確に理解したうえで主体的な回答に至るようにするために、必要に応じて今後も継続して工夫するものとする。
- 自己評価の結果の公表については、従来どおりＰＤＣＡサイクルに基づいた内容のものとしつつ、「目標と評価指標」、「取組状況」、「達成状況」、「改善方策」等との関連付けがより理解しやすいものとするために、必要に応じて実態としての評価活動の内容を記述するものとする。

２．学校関係者評価の結果報告

（１）学校関係者評価委員会（構成委員７名）による評価の結果

・　自己評価の結果内容が適切かどうか

適切である（　７　）人　・　適切でない（　０　）人　・　無回答（　０　）人

・　自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか

適切である（　７　）人　・　適切でない（　０　）人　・　無回答（　０　）人

・　学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか

適切である（　７　）人　・　適切でない（　０　）人　・　無回答（　０　）人

・　学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

適切である（　７　）人　・　適切でない（　０　）人　・　無回答（　０　）人

（２）学校関係者評価委員会の体制等

「同委員会の設置」

・　「学校関係者評価委員会設置要項」（別紙）に基づき、同委員会を設置した。

・　各委員に対して、「同委員会設置要項」、「委嘱状」、「学校評価計画書」、「自己評価アンケートの資料」および「回答書」等の送付を含め、同委員会会議開催について案内した。

「同委員会の構成」

・　委員（7名）

在校生の保護者　・・・・・・・2名

卒業生の保護者（関係教育機関所属）　・・・・・・・1名

卒業生（成人、地域企業所属）　・・・・・・・3名

学識経験者（関係教育機関所属）　・・・・・・・1名

・　事務局

校長（委員会設置者）

教頭（3年次担任）

職員（事務長）

（３）学校評価委員会の評価活動

「概要」

・　学校評価の制度意義、自己評価および学校関係者評価の主旨等について、確認した。

・　本校の教育活動全般について、理解を図った。
・　書面による連絡等の他、本校内において同委員会の会議を開催した。

「同委員会会議」

・　議題等は、次のとおりとした。
・　事前に送付済みの資料として
　「平成 29 年度　学校評価計画書」
　「平成 28 年度　自己評価アンケート」（教職員）
　「平成 28 年度　学校評価アンケート」（生徒・保護者）
・　報告事項として
　「平成 29 年度の重点目標等、具体的な目標や計画」
　「平成 29 年度の自己評価の評価項目等の取組状況」
　「平成 28 年度の自己評価・学校関係者評価の結果を踏まえた改善の状況」等
・　協議事項として
　「自己評価の結果内容が適切かどうか」
　「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか」
　「学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか」
　「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」等
・　協議の結果は、上記２．（１）のとおりとなった。

「補足」

・　平成 27 年度と平成 28 年度における学校評価アンケート結果について比較を行ったところ、「よくわからない」と評価した生徒および保護者は、例年通りであった。しかしながら、「まったく感じない」と評価した保護者は今回該当せず、前年度より保護者の理解が深まったと一定評価する。
・　教職員に対する自己評価アンケート結果と生徒・保護者に対する学校評価アンケート結果について比較を行ったところ、ほぼ差異はなかった。しかしながら、「清掃が行き届いている」の項目においては、教職員（65%）、生徒（77.2%）、保護者（80.6%）と開きがあるように感じられる。これは、日頃から校舎の美化に努めようとする教職員の意識の高さと受け止められる。
・　すべての評価項目で「よく感じる」という回答であったが、保護者に対する学校評価アンケート項目の中で、「授業や課題、特別活動（学校行事）において工夫されている」の数値が若干低く（約 70%）、学校として保護者との接し方が弱かったのではないかとの指摘があり、保護者への伝達として 4 月と 10 月に行っている三者懇談のあり方についても今後検討し、次年度の課題として共有する。
・　保護者に対する学校評価アンケート項目の中の「特別活動（学校行事）が生徒が取り組みたくなるよう工夫されている」においては、月 1 回の通信で行事案内が

送られてくるが、よりわかりやすいように工夫して欲しいとの要望があった。現在は、読みやすくするために書式を統一しているが、同じような形式の物が毎月送られていると勘違いしやすいため、ただの印刷物にならないよう教員たちの個性を加えたものや、目を引くものにしたらよいのではないか等の指摘を受けた。通信物の内容に関しては、次年度の課題とするが、今まで学校としても決して伝達だけの手段として通信を捉えてはおらず、担任だけに限らず毎回、教員たちは生徒一人ひとりに宛てた個別の手紙（手書き）を同封している。この手紙は、生徒や保護者からも継続して欲しいとの強い要望があり、保護者に対する学校評価アンケート項目の「学校が発信するプリントや通信を通して、学校での活動を知ることができる」の結果においても、「よく感じる」（89.9%）と評価されている。

- 卒業生からとしては、生徒・保護者に対する学校評価アンケート項目の中で「この学校に入学してよかったと思う」の結果が「よく感じる」（約 86%）と評価されていることは、生徒人数が増えているにも関わらず、生徒一人ひとりにきめ細かい対応をしている表れであり誇らしいとの言葉をもらった。また、生徒の誕生日に教員が歌のプレゼントをしているが、今後も続けて欲しいとの意見があった（その日に出会えなかった子には、「ハッピーバースデートゥーユー」を教員全員で歌い、それを動画にして送っている）。
- 次年度における学校評価アンケートの実施方法について、「よくわからない」は無回答と一緒であるため、次年度の選択肢から省いてもよいのではないかとの意見が出た。また、数字に表れないところの意見も取り入れる工夫が必要との提案があり、具体的には、現在の選択肢である「よく感じる」「少し感じる」「あまり感じない」「まったく感じない」「よくわからない」以外で、それにあてはまらないケースに対応するため、自由に意見を書く記述式の欄を設ける等の要望があった。
- 生徒および保護者とも、学校評価アンケート項目の「この学校に入学させてよかったと思う」について「よく感じる」（約 86%）を選択しており、全体的には一定の評価を得られたと認識するが、今後もより一層子どもを中心とした教育を続けていくことを再確認した。

（別紙）

秋桜高等学校　学校関係者評価委員会　設置要項

（設置）

1. 秋桜高等学校（以下「学校」という。）に、学校関係者評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（目的）

2. 委員会は、学校がその教育活動その他の学校運営の状況について行う評価（以下「自己評価」という。）の結果を踏まえて、これについて評価を行うことを目的とする。

（評価）

3. 委員会が行う評価項目は、次にとおりとする。
   (1) 自己評価の結果の内容が適切かどうか。
   (2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。
   (3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。
   (4) 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか。

（構成）

4. 委員会の構成は、次にとおりとする。
   (1) 委員会の委員については、その役割にふさわしいと認められる人物を学校に在籍する生徒の保護者のうちから校長が委嘱する。
   (2) 必要に応じて、地域住民・地元企業関係者・青少年の健全育成にかかわる団体の関係者・他の学校（中学校・高等学校等）の教職員・有識者等のうちから校長が委嘱した委員を加えることがある。
   (3) 委員の人数は７人以内とする。
   (4) 委員の任期は、委嘱を受けた日の属する年度末までとし、再任を妨げない。
   (5) 特別な事情がある場合は、校長は任期の途中で委員を解職することができる。
   (6) 委員に欠員が生じたときは、校長は新たな委員を委嘱することができる。
   (7) 委員会の会長については、校長が委員の中から指名する。

（委員会）

5. 委員会の委員は、次の事項に留意するものとする。
   (1) 委員は、適切な時期・方法により委員会での協議に加わる。
   (2) 委員は、生徒に関する個人情報の保護に努める等、必要な守秘義務を負う。
   (3) 委員会には、学校の教職員をもって構成する事務局を設ける。
   (4) 事務局は学校内に置く。

（その他）

6. この要項に定めるもののほか、委員会に関して必要な事項は、校長が定めるものとする。

附則　この要項は 2010（平成 22）年 11 月 1 日から施行し、同年 4 月 1 日から適用する。